

活動状況報告書（3 月分）

文化芸術コース 荻原 るうか

ほっかいどう未来チャレンジ基金第 7 期生の荻原るうかです。

今月は、2 つのアンサンブルコンサートと Contemporary Specialism の授業内試験がありました。

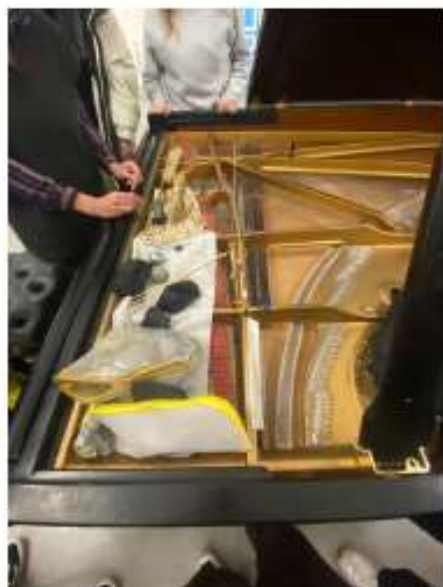
3 月 13 日には、大学の作曲専攻の学生による作品を EXPLORE ENSEMBLE という現代曲をメインにイギリスで演奏活動を行っているプロのアンサンブルチームが初演するコンサートが行われました。もともと編成にはピアノは含まれていませんでしたが、1 人の学生が誤ってピアノ五重奏を作曲してしまい、急きょ演奏をお願いできないかと、2 週間前に依頼を受けました。プロの演奏家と共演できる貴重な機会であったことに加え、以前から作曲専攻の学生の企画に積極的に関わり、交流を深めていきたいと考えていたため、迷わず引き受けました。リハーサルは、いつも通り 45 分を 2 回のみという短い時間で行われました。さらに彼の作品は規定時間を超えていたため、カットの場所について作曲者の強いこだわりがあり、調整に時間を要しました。演奏中には人間の声と AI 音声流れる pre-recorded も含まれており、その打ち合わせにも時間を割く必要がありました。十分に満足のいくリハーサルができたとは言えませんが、本番ではプロの方々が見事にまとめ上げ、私も足を引っ張ることなくしっかりと演奏できたと思います。

3 月 25 日には、指揮科のコンサートでチェレスタを演奏しました。チェレスタはピアノよりも音量が小さいため、より意識的な打鍵が必要になります。また、出番が限られている中でも、音楽の中で効果的に響かせる演奏について学びました。本番では、器楽セクションの後方、打楽器の前という普段と異なる配置で演奏し、音の聞こえ方がまったく違うことを実感しました。指揮者の合図をしっかりと確認しないと、反響の影響で耳だけではタイミングをとれないこともあり、注意が必要でした。これまでソリストとして前方で演奏することが多かったため、このような経験はとても貴重でした。

また、Contemporary Specialism の特別授業では、アメリカで活動されている Magda Mayas から即興演奏とレクチャーを受けました。釣り糸やマグネットなど、日常的な物がピアノの新たな音色を生み出すという発想はとても興味深く感じました。レクチャーでは年代ごとにさまざまな奏法を学び、クラシック音楽の伝統があるからこそ、作曲家たちはその枠を越えて新たな表現に挑戦し、音楽を発展させてきたのだと実感しました。

4 月はイースターホリデー（春休み）を挟み、ソロの試験が控えています。休暇の時間を有効に使い、しっかりと練習に励んで準備を進めたいと思います。

Magda Mayas のレクチャーにて



桜が咲き始めてきました



13 日のリハーサル



25 日のコンサートホールとチェレスタ

